20TH ANNIVERSARY

JICA LIBRARY
1174105[5]

中国事
J R

JICA
105
36
CNO
LIBRARY

日本国际协力事业团中华人民共和国事务所成立20周年纪念刊

国際協力事業団中華人民共和国事務所開設20周年記念誌

CONTENTS

致辞　ご挨拶

3　日本国际协力事业团总裁　川上隆朗
国際協力事業団総裁　川上隆朗

4　日本国驻中国大使　阿南惟茂
在中国日本特命全権大使　阿南惟茂

5　中国科学技术部　部长　徐冠华
中国科学技術部　部長　徐冠華

6　中国对外贸易经济合作部　部长　石广生
中国対外貿易経済合作部　部長　石広生

年表　年表

7　JICA和中国的历史进程
JICAと中国の歩み

改革开放　改革開放

9　概要
概要

13　工厂现代化计划调查
工場近代化計画調査

14　海南岛综合开发计划调查
海南島総合開発計画調査

15　上海浦东国际机场计划调查
上海浦東国際空港計画調査

16　海城市乡村城市化综合开发计划调查
郷村都市化実験市（海城市）総合開発計画調査

改善环境　環境改善

17　概要
概要

21　中日友好环境保护中心
日中友好環境保全センター

23　大连环境示范城市
大連環境モデル都市

24　宁夏森林保护研究计划
寧夏森林保護研究計画

25　四川省示范林营造项目
四川省森林造成モデル計画

改善生活环境　生活環境整備

27　概要
概要

31　中日友好医院
中日友好病院

33　控制脊髓灰质炎项目
ポリオ対策プロジェクト

35　少数民族中学教育器材配备计划贵阳市花溪民族中学
少数民族中等学校教育機材整備計画貴陽市花渓民族中学

37　贵州省三都县全民参与综合扶贫试点项目
貴州省三都県総合貧困対策モデルプロジェクト

39　加强农业技术推广体系建设项目
中国農業技術普及システム強化計画

相互理解　相互理解

41　概要
概要

45　中日青年交流中心
日中青年交流センター

46　青年海外协力队／佐藤英树
青年海外協力隊／佐藤英樹

47　青年海外协力队／二宫伸子
青年海外協力隊／二宮伸子

48　青年海外协力队／煤孙泰洋
青年海外協力隊／煤孫泰洋

49　青年邀请／朱鹰
青年招聘／朱鷹

50　进修生派遣／花长春
研修員受入／花長春

关于对华援助的重点领域　対中援助における重点分野について

51

资料　データ編

52　首任JICA所长／八岛继男
JICA初代所長／八島継男

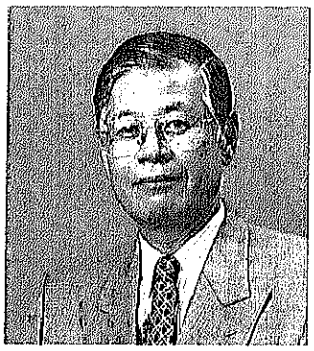
53　实绩资料一览
実績データ一覧

55　专项方式技术合作实施项目一览
プロジェクト方式技術協力実施案件一覧

57　开发调查实施项目一览
開発調査実施案件一覧

59　无偿资金合作实施项目一览
無償資金協力実施案件一覧

61　青年海外协力队派遣实绩
青年海外協力隊派遣実績



日本国际协力事业团 总裁
川上隆朗

国際協力事業団 総裁
川上隆朗

今年是日中邦交正常化30周年，是值得纪念的一年，同时也迎来了日本国际协力事业团中国事务所成立20周年的喜庆之日。这20年是中国改革、开放的20年，回顾这20年的历程中国的变化速度之快令人吃惊。人均GDP（美元）约增长了2倍，日中间的贸易及人员往来数量增长了几十倍。本事业团中国事务所也由1982年成立之初所长孤身一人暂借日本大使馆一隅开始创业，成为至今已拥有19名日方职员、22名中方职员的大事务所。技术合作规模也从当时的20亿日元增加到现在的约80亿日元。

与事务所成立同时，启动了具有纪念意义的中日友好医院项目。中日友好医院是利用日本政府的无偿资金援助建设的，在这 20年中本事业团一直与其进行着技术合作。至今为止已接收了234名赴日进修人员，先后派遣了166名专家来华工作。

现在，该医院已成为中国最有名的医院之一，除平均每天接纳2500名门诊患者外，在本事业团合作支持下，开始对欠发达中西部内陆地区的医生和护士进行培训。我们认为把从日本学到的技术推广到国内其他地区，类似这样的培训，才是我们今后对华技术合作中具有示范意义的形式之一。

回顾20年的技术合作，其内容的变化也非常巨大。80年代的合作主要着眼于中国经济发展的瓶颈产业和完善基础生活设施。本事业团对铁路、公路、港湾等基础设施的开发计划进行了30多项调查。对北京首都机场和上海浦东机场建设提供了开发调查合作。90年代加大了对环境领域的合作。以中日友好环境保护中心为主体在环境领域开展了各种各样的合作。

进入21世纪，改革开放政策的成果日趋显著，中国对发展的需求也在发生很大变化。2001年10月，日本政府制定了"对华经济合作计划"，明确了今后对华援助的方向。本事业团今后将根据该计划，以环境合作、支持市场经济建设、促进日中相互理解、支持扶贫等重点课题为中心开展合作。

最后，对这20年来给予本事业团大力支持的各位人士，特别是中国技术合作的归口单位科学技术部的各位官员、无偿资金合作的归口单位对外贸易经济合作部的各位官员表示衷心的感谢！同时，热切期望各位今后一如既往的给予我们大力支持！

本年は日中国交回復30周年という記念すべき年に当たりますが、当事業団にとりましても中国事務所開設20周年という節目を迎えることになりました。中国にとってこの間の20年は改革・開放の20年でしたが、振り返りますとやはり中国の変化の早さには驚きを禁じ得ません。一人あたりのGDPは約3倍（US$ベース）になり、日中間の貿易量や人の往来は数十倍に増大しております。当事業団中国事務所も1982年当時、大使館の片隅を借りて所長一人で開設にこぎ着けましたが、現在では日本人19名、中国人22名の大所帯となっております。技術協力の規模につきましても、当時は20億円程度でしたが、現在では80億円前後までに増加しております。

事務所開設と時を合わせて、日中友好の記念碑的な案件である中日友好病院のプロジェクトが始まりました。同病院は日本の無償資金協力にて建設され、20年間継続的に技術協力が実施されました。これまでに234名の研修員を受け入れ、延べ166名の専門家が派遣されました。

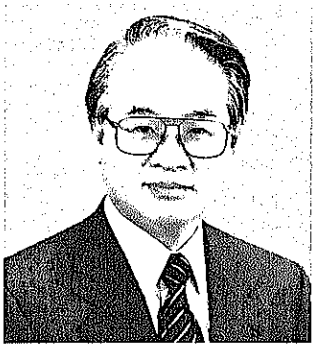
現在同病院は中国でも最も有名な病院の一つとなっており、1日平均2,500名の外来患者を受け入れている他、当事業団との協力により、いまだ開発が進んでいない中西部内陸地域の医師・看護婦への研修事業を始めております。日本から得た技術を更に国内の他地域に普及するこのような研修は、これからの対中技術協力のモデルの一つになるのではないかと考えます。

この20年間の技術協力を振り返りますと、その内容の変化も非常に大きなものがあります。80年代の協力の主眼は、中国の経済発展のボトルネックであった産業・生活インフラ整備におかれており、当事業団も鉄道、道路、港湾などの開発計画に対する調査を30件以上行ってまいりました。北京の首都空港や上海の浦東空港についても当事業団が開発調査として協力を行っております。90年代には環境分野の課題に対する協力が増大し、日中友好環境保全センターなどを中心として様々な環境分野の協力を行っております。

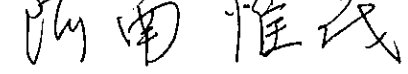
21世紀に入りますと、改革・開放政策の成果が大きく表れ、中国の開発に対するニーズも大きく変化し、2001年10月、日本国政府は対中国経済協力計画を策定し、今後の対中国援助の方向性が示されました。当事業団としましても、今後、対中国経済協力計画に基づき、重点課題とされている環境協力、市場経済化への支援、日中の相互理解の促進、貧困削減への支援等を中心として事業を展開してまいりたいと考えております。

最後に、20年来当事業団の事業に御協力を頂いた方々、特に中国における技術協力事業の窓口である科学技術部の皆様、無償資金協力事業の窓口である対外貿易経済合作部の皆様に対しましては心より感謝を申し上げるとともに、今後ともこれまで以上の御支援を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

1174105【5】



日本国驻中国大使
阿南惟茂
在中国日本国特命全権大使
阿南惟茂



值此日本国际协力事业团(JICA)中国事务所成立20周年之际，在此表示衷心地祝贺！同时也对各位有关人员多年来所做的努力贡献深表敬意！

今年是日中两国邦交正常化30周年。在日本将30年作为"一代"，认为30年作为一个阶段足以用来表现一个人的一生。因此，今年对于追忆过去，展望未来是极为有意义的一年。

在这30年当中，为了支持中国的改革开放政策及协助中国经济走向现代化，始于1979年的日本对华政府开发援助，也已经有了20年以上的历史。这漫长的历史正是由JICA作为技术合作的实施机构而发展起来的。

JICA的事业内容是以通过技术转让来实现的"人才培养"为基础的，例如通过中日友好医院、中日友好环境保护中心等众多基地来实现的技术合作项目以及派遣个别专家、青年海外协力队、调查团、接纳超过1万人次的赴日进修人员等等，通过实施这些项目，对可以称之为治国之本的"育人" 提供了各种合作。

这些通过技术合作而培养的人才，将所学到的知识、技术在国内进行普及，把这些知识活用到经济社会开发计划的制定或制度的建立上，具有广泛的波及效应，同时也会成为通过自身努力实现自立发展的重要因素。

另外，技术合作的重要性还在于它是伴随着人与人之间交流的合作，这种心与心的合作关系范围的扩大，成为超越国界与年龄的纽带，对促进两国人民间的友好关系与相互理解作出了重大贡献。

由于最近日中情况的变化，对华经济合作的方式也迎来了发生变化的时期。财政重建、经济复苏成为日本重要且紧迫的课题，中国以沿海地区为中心的高速经济发展及技术水平的提高等，使得开发援助方面的课题也在发生变化。开发援助开始之时的日中经济关系与21世纪的今天已有很大的不同，我们应该面对这样的现实。

基于上述的变化，日本政府于去年10月重新发布了《对华经济合作计划》。正如计划中强调的那样，日本对华经济合作的重点，在区域方面将从沿海地区转向内陆地区，在内容方面将从大规模的基础设施建设转向环境、医疗及伴随市场经济的人才培养与健全制度、增进相互理解、克服贫困问题等领域。期待着适应这种重点领域及课题的变化，JICA所实施的技术合作更加突出重点和有效，JICA技术合作的作用仍然十分重要。

尽管中国经济高速发展，但在幅员辽阔的国土上仍然存在着不少社会开发方面的需求。我们了解作为中国政府对此也在进行积极的对应，但是任务十分艰巨。作为日本政府，今后会在相互信任、互惠互利的原则下，继续帮助解决中国的开发课题。

国際協力事業団（JICA）中国事務所設立20周年に際し、心よりお祝い申し上げるとともに、長年にわたる関係者の努力と貢献に敬意を表したいと思います。

また、本年は、日中国交正常化30周年にあたります。日本では30年を「一世代」、一人の人間の人生を語るに足りる一区切りと考えており、過去を振り返り、未来を展望する上で大変意義のある年であります。

その30年という時間の中でも、中国の改革開放政策の支援と経済の近代化への協力のため1979年以来開始した日本の中国に対する政府開発援助は、既に20年以上の長い歴史を有しています。そしてその長い歴史を、JICAは、技術協力の実施機関として支えてきました。

JICAの事業内容は技術の移転による「人材の育成」を基本としています。例えば中日友好病院、日中友好環境保全センターなど多くの拠点を通じた技術協力プロジェクトの他、個別専門家、青年海外協力隊、調査団の派遣、のべ1万人を超える訪日研修生の受入等を実施して、国造りの基本とも言える「人づくり」に協力してきました。

このような技術協力によって育成された人材が、その習得した知識、技術を国内に普及し、経済社会開発の計画造りや制度造りに活用することにより、その波及効果は大きな広がりを持ち、自助努力による自立的な発展を可能とする要素ともなりました。

また、技術協力の重要性は、人の交流を伴う協力であるという点にもあります。心と心の通じる協力関係の輪の広がりは、国境や世代を越えた絆となり、両国国民の間の友好関係と相互理解の促進に大きな貢献を果たして参りました。

さて、最近における日中を巡る状況の変化により、対中経済協力のあり方も大きな変化の時期を迎えています。即ち、日本においては財政再建、経済再生が重要かつ緊急の課題となっていること、中国の沿岸部を中心とした目覚ましい経済発展、技術水準の向上等により、開発上の課題も変化し、開発援助を開始した当時の日中経済関係と21世紀の今日では明らかに異なる現実に直面しております。

こうした変化を踏まえ、日本政府は昨年10月新たに、「対中経済協力計画」を発表しました。その中で強調されているように、日本の対中経協の重点は、地域的には沿海部から内陸部へ、そして内容的には大規模なインフラ整備から環境や医療、市場経済化に伴う人材育成や法的整備、相互理解の増進、貧困問題の克服といった分野へ移っております。このような重点分野や課題の変化に対応してJICAの行う技術協力もより焦点を絞った効果的な実施が望まれており、その役割は引き続き重要であります。

中国の急速な経済発展にもかかわらず、その広大な国土には、なお少なからぬ社会開発面でのニーズが存在しています。中国政府としても、これに対して懸命な取組みを行ってきていると承知しておりますが、なおその任務は巨大なものです。日本政府と致しましては、相互信頼と互恵互利の精神の下に、引続き中国における開発課題の解決のため、今後ともお手伝いを行っていく所存であります。

加强中日技术合作 推动睦邻友好关系

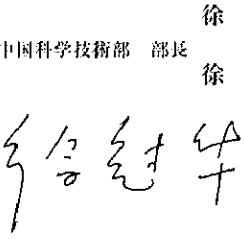
—庆祝中日邦交正常化30周年、日本JICA中国事务所成立20周年—

日中技術協力強化　善隣友好関係の促進

—中日国交正常化30周年、JICA中国事務所開設20周年を記念して—

中国科学技术部　部长
徐　冠华

中国科学技術部　部長
徐　冠華



中日两国是一衣带水的友好邻邦，有着深厚的历史文化渊源和广泛的共同利益。长期以来，两国人民通过在科学技术领域的交流和合作，相互借鉴，共同进步，推动了两国睦邻友好关系的不断发展。自1972年中日邦交正常化后，特别是70年代末期我国开始实行改革开放政策以来，两国科技合作和交流活动变的更为活跃，双边经济和科技合作关系步入了新纪元。

中日JICA渠道技术合作，同日元贷款、无偿资金合作一起，构成了中日经济技术合作的三大内容之一，也是中日政府间科技交流和合作的重要组成部分。它以适用性强、形式多样、软硬件结合、规模和渠道相对稳定、受益面广的特点，在中日经济技术合作和科学技术合作中发挥了独特的作用，为我国经济发展和科技进步做出了贡献，也为维护和发展中日睦邻友好关系做出了贡献。中日JICA渠道技术合作的主要形式有专项技术合作、开发调查、人员交流与培训和接受专家等。合作与交流以应用技术为主，涵盖农业、水利、环境、能源、交通、卫生保健和技术管理等领域。截至到2002年3月，在这一合作框架下，双方共组织实施了67个专项技术合作项目、142个开发调查项目和16个其它类型的合作项目，共派遣12800多名我各类专业技术人员和管理人员赴日学习进修，邀请4600多名日本专家来华进行技术指导，还接收了430多名日本青年海外协力队员来华工作。近年来，围绕我国民经济建设和科技发展的一些重点、热点和难点问题，如西部大开发、扶贫、环境保护、大中型企业技术改造和防洪抗洪等题目，中日双方也通过这一渠道开展了大量针对性强、有实效的合作，进一步提高了中日政府间JICA渠道技术合作的作用和影响，得到我各地方和部门的普遍欢迎和感谢。

科技部作为中日政府间JICA渠道技术合作的中方归口管理部门，在组织和实施合作项目、推动双方人员交流的过程中，同日本外务省、日本国际协力事业团及其它日方有关机构建立了良好的工作关系。合作中，日本同行饱满的工作热情、严谨的工作态度和卓越的工作能力，都给我们留下了深刻的印象。我们愿意一如既往，加强相互沟通和联系，共同朝着不断提高合作质量、扩大合作规模的方向而努力。

为顺应全球化进程加快和科学技术迅猛发展的世纪潮流，中国政府正大力实施科教兴国和可持续发展战略，这是我们的生存与发展之路，也是我们能够承担推动世界文明进步义务的必然选择，我相信，这也为中日经济和科技合作提供了广阔的发展空间。中日政府间JICA渠道技术合作重在做实事、做善事，符合中日两国的共同利益，是推动中日睦邻友好关系的必然要求，大有可为，前景无限。

时值庆祝中日邦交正常化30周年之际，我们也迎来了日本国际协力团中国事务所成立20周年纪念日，借此机会，我谨向日本国际协力事业团的同仁们表示衷心的祝贺和良好的祝愿，并对他们在推动中日技术合作中富有成效的工作表示感谢。最后，祝愿中日技术合作日益扩大，中日科技合作关系和中日两国人民睦邻友好关系不断发展。

中日両国は一衣帯水の友好的な隣国であり、確固たる歴史文化の礎と幅広い利益を共有しています。古来、両国は科学技術分野の交流と協力を通じ、相互に学びあい、共に進歩し、善隣友好関係の絶え間ない発展へと結びつけてきました。1972年の中日国交正常化後、特に70年代末に我が国が改革開放政策を実行して以来、両国の科学技術分野における協力と交流活動は一層活発化し、双方の協力関係は、新しい時代に入りました。

中日両国間におけるJICAを通じた技術協力は、円借款、無償資金協力と共に中日経済技術協力の三大柱であり、また両国政府間の科学技術交流・協力の重要な要素でもあります。技術協力はその高い適応性、多様な協力形態、ソフト・ハードの巧みな組み合わせ、政府間協力による協力規模の安定等、様々なメリットが存在し、両国の経済協力と科学技術協力において重要な役割を担ってきました。そして同時に我が国の経済発展と科学技術の進歩に貢献し、更には中日両国の善隣友好関係の維持と発展にも寄与してきました。技術協力の主な方式は、プロジェクト方式技術協力、開発調査、人材交流、研修及び専門家受入等です。また分野としては、応用技術を中心に、農業、水利、環境、エネルギー、交通、保健医療及び技術管理等、多岐にわたります。2002年3月現在、これらの協力形態により、双方共同で67件のプロジェクト方式技術協力、142件の開発調査及びその他16件の協力プロジェクトを実施してまいりました。また、1万2800名を越す各分野の専門技術者及び管理職を訪日研修に派遣し、4600名以上の日本の専門家を招聘して技術指導を受け、更に430名余りの青年海外協力隊員を中国に招きました。近年、我が国の国民生活向上と科学技術の発展を取り巻く重点課題、例えば、西部大開発、貧困克服、環境保護、大中型企業の技術革新や洪水対策等のテーマは、これらの技術協力方式を通じて、中日双方が的確で効果的な協力を行ったことにより、両国政府間におけるJICAルート技術協力の有効性と影響力を更に高め、我が国の各地方及び機関からも幅広く歓迎と感謝を受けてきました。科技部は中日両国政府間の技術協力の中国側取り纏め機関として協力プロジェクトの形成と実施を担い、双方の人材交流を進める過程でも、日本の外務省、国際協力事業団及びその他日本の関連機関との間に良好な関係を築いて参りました。日本側との協力において私どもは、日本人の仕事に対する情熱、業務に対する厳しい姿勢とその卓越した能力に、深く感銘し影響を受けてきました。私どもは、今後もこれまで同様に、相互のコミュニケーションと連絡体制を強化し、力を合せて協力の質の向上と協力規模の拡大に向けて絶えず努力して参りたいと考えています。

グローバル化の加速と科学技術の急速な発展に特徴づけられる今世紀の潮流に対応するため、中国政府は科学教育による国家の振興と持続可能な発展戦略の実現に力を入れています。これは、私たちが生存・発展し得る唯一の道であり、また私たちが負っている「世界文明の進歩を推進する」という責務を果たすためにも避けては通れぬ選択なのです。そしてこの道を進むことこそが、中日両国の経済・科学技術協力にとって、無限の発展領域を拓くことであると私は考えています。両国政府にあっては技術協力の重点を、より実際的、且つより優れた事業に置くべきであり、このことは中日両国の共通利益に合致するばかりでなく、両国の善隣友好関係推進に不可欠な要素でもあります。これは非常に意義のあることであり、限りなき未来を切り拓くものと信じています。

中日国交正常化30周年という喜ばしい年に、同時に私たちは国際協力事業団中国事務所開設20周年を迎えました。私はこの機会を借りて、国際協力事業団の皆様に対し心からのお祝いを申し上げますとともに、中日両国の技術協力における多大な貢献に心から感謝申し上げます。

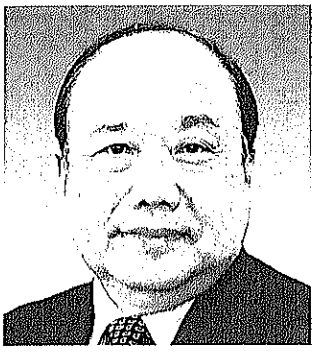
最後に、両国技術協力の一層の拡大と、両国の技術協力関係及び中日両国民の善隣友好関係の絶え間なき発展を、心から祈願いたします。

継往开来　友好合作

—祝贺日本国际协力事业团中国事务所成立20周年—

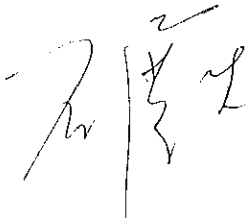
継往開来　友好合作（前人の事業を受け継ぎ、将来の発展に道を開く。友好協力。）

—国際協力事業団中国事務所開設20周年のお祝いにあたって—



中国对外贸易经济合作部　部长
石 广生

中国対外貿易経済合作部　部長
石 広生



中日两国自1972年邦交正常化以来，在双方的共同努力下，经济贸易合作取得了可喜的成果。经过30年时间的友好往来，中日两国已成为重要的经贸合作伙伴，并形成了优势互补、形式多样、稳定发展的合作框架。这种合作不仅为两国带来经济和社会利益，也为推动两国友好关系的巩固和发展做出了积极贡献。

日本对中国的发展合作自20世纪70年代末80年代初开始，基本上与中国的改革开放政策同步进行。这种合作对中国的改革开放和经济建设起到了促进作用。在多种形式的合作中，日本国际协力事业团为推动在中国的技术合作和无偿资金合作项目的实施发挥了重要的作用。特别是1982年在北京设立的日本国际协力事业团中国事务所，作为中日两国政府间经济合作的桥梁之一，为加强双方的交流和沟通，促进各项目的顺利实施起到了不可替代的作用，受到了各有关方面的高度评价。

正值中日邦交正常化30周年之际，又迎来了日本国际协力事业团中国事务所成立20周年，在此，我谨代表对外贸易经济合作部对中国事务所成立20周年表示热烈的祝贺，并对日本国际协力事业团长期以来对中日经济合作所做的努力表示感谢。在新的世纪里，希望中日双方进一步加强合作，为推动两国友好关系的发展，从而为亚洲乃至世界的和平与发展做出新的贡献。

中日両国は、1972年の国交正常化以来、双方の努力により経済・貿易面でも協力を重ね、喜ばしい成果を上げてきました。またこの30年間の友好交流を通じて、中日両国はお互いが経済協力の重要なパートナーとなっただけでなく、互いの長所を生かし、協力形態も多様化させ、安定的に発展する協力の枠組みを作り上げました。こうした協力は単に両国に経済的・社会的利益をもたらすだけではなく、両国友好関係の強化・発展にも積極的に貢献しました。

中国の発展に資する日本の協力は、20世紀の70年代末から80年代初頭に始められ、基本的に中国の改革開放政策と同じ歩みを重ねてきました。そしてこれらの協力は、中国の改革開放と経済建設を促してきたのです。数多くの協力スキームの中で国際協力事業団は、技術協力および無償資金協力プロジェクトの実施促進に当たり、大きな役割を果たしました。特に、中日両国政府間の経済協力の掛け橋として、1982年、北京に国際協力事業団中国事務所が開設され、両国の交流とコミュニケーション強化の上で、また各協力プロジェクトの円滑な実施を促す上で、かけがえのない貢献をしてきたことは、関係各方面から高い評価を受けています。

中日国交正常化30周年の正にこの年に、国際協力事業団中国事務所も開設20周年を迎えました。私は対外貿易経済合作部を代表し、ここに謹んで国際協力事業団中国事務所開設20周年に対し心よりお祝い申し上げるとともに、国際協力事業団が長年にわたって対中経済協力に尽くしてこられたことに対しお礼申し上げます。新しい世紀において、中日双方が協力関係を一層強化し、両国の友好関係を発展させるため、そしてひいてはアジアないし世界の平和と発展を実現するために、更なる貢献を果たすよう希望してやみません。

JICA和中国的历史进程
History of JICA with CHINA
JICAと中国の歩み

1972 1975 1980 1982 1985 1990 1995 2000 2002 2005

中国的历史／中国の歴史

- 在华国日本大使馆开设
- 日本国外务省设置亚洲局
- 日中国交正常化实现（日中共同声明发表）
- 实现中日和平友好条约（第次中日共同声明）

- 第7次五年计划颁布（"经济改革"、"对外开放"的提出）
- 通过"八五"七年计划纲要"，提出"促进经济改革及对外开放"
- 中国共产党12届3中全会通过"进行经济体制改革的决定"

- 第9次五年计划纲要颁布（"市场经济体制"的提出）
- 通过"九五"五年计划纲要"，提出"推进西部大开发"
- 香港、中国に返還される
- 澳門、中国に返還される

- 第8次五年计划纲要颁布（"改革、开放"的推进）
- 通过"八五"五年计划纲要"，提出"推进改革开放"
- 中国共产党第14回党大会"社会主义市场经济"を宣言
- 中国共产党第14次代表大会提出"建设社会主义市场经济"
- 邓小平氏の南巡講話（"改革"から"社会主义市场经济体制"へ）
- 邓小平氏の南巡講話（"改革"から"社会主义市场经济体制"への転換）
- 中华人民共和国建立50周年
- 中华人民共和国成立50周年

- 第11回ジャパン・ウィーク（於北京）
- 北京市外国人留学生
- 拓殖大学

JICA的活动／JICAの活動

开始和初创时期
開始と揺籃期

- 国際協力事業団（JICA）中国事務所開設
- 国际协力事业团（JICA）中国事务所成立
- 首例专项方式技术合作开始（中日友好医院）・プロジェクト方式技術協力第一号開始（中日友好病院）
- 签署首次无偿资金合作E／N（对中日友好医院建设计划项目）・無償資金協力第1号E／N締結（中日友好病院建設計画）
- 首例开发调查项目开始（成江水利发电开发计划）・開発調査第1号開始（麻江水力発電開発計画）
- 日世銀第一号L／A調印（石回所道路改善工程等5件）
- 签署首次日元贷款L／A（行政所道路建设工程及其他9项目）
- 对中政府开发援助之"铁道分野的借款"、"专门家派遣"、"物资管理分野的专门家派遣"
- 作为对华政府开发援助开始技术合作（铁路领域、社会经济领域、港湾等领域、妇女及道路基础设施领域等）

第一次发展期
第1次発展期

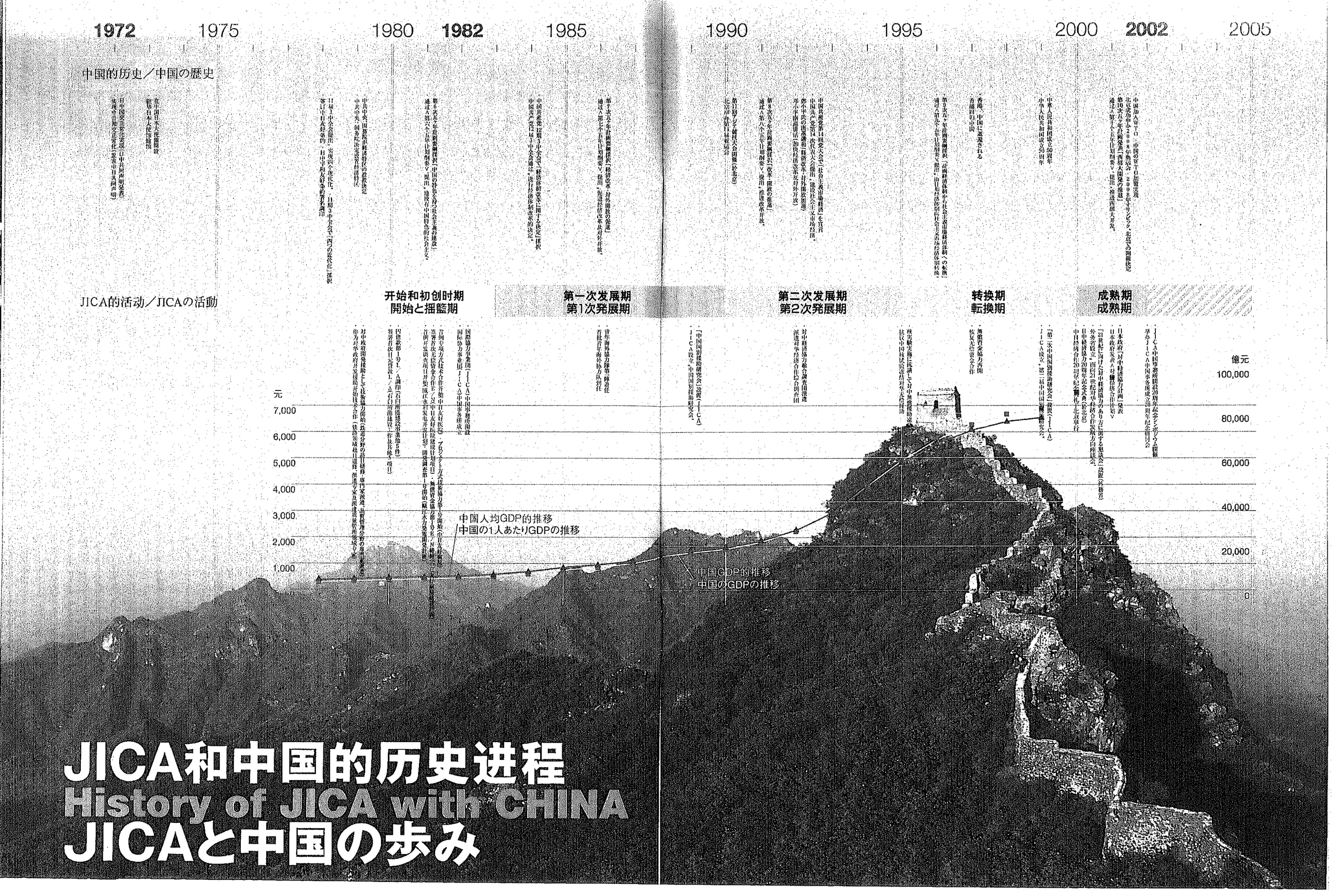
- 首年海外协力队第一队派出
- 首批青年海外协力队派往

第二次发展期
第2次発展期

- 「中国国别援助研究会」设置（JICA）
- JICA设立、中国国别援助研究会。
- 对中经济协力总合调查团派遣
- 派遣对华经济合作综合调查团

转换期
転換期

- 无偿资金协力再开
- 恢复无偿资金合作
- 核实验实施に抗議して対中無償援助凍結
- 抗议中国核试验并结束对华无偿援助

成熟期
成熟期

- JICA中国事务所撤销并设置JICA中国事务所成立20周年纪念研讨会
- 举办JICA中国事务所成立20周年纪念研讨会
- 日本政府「对中经济协力计画」发表
- 日本政府发表"对华经济协力计划"
- 「21世纪に向けた对中经济协力のあり方」に关する思考会」设置（外务省）
- 外务省设立、面向21世纪对华经济合作发展方向座谈会
- 日中经济协力20周年纪念式典（於北京）
- 日中经济合作20周年纪念典礼（于北京举行）
- 【第二次中国国别援助研究会】设置（JICA）
- JICA设立、第二届中国国别援助研究会。